

ハイデルベルク信仰問答より

問 129 「アーメン」というこの小さな言葉は、どういう意味ですか。

答え アーメンというのは、これは真実である、ということを意味しています。なぜなら、私たちの祈りは、神にこのようなことを望んでいると心の中で信じているより、一層確かに、神によって聞かれているからであります。

〔別訳〕

答え 「アーメン」とは、それが真実であり確実である、ということです。なぜなら、これらのことを神に願い求めていると、わたしが心の中で感じているよりもはるかに確実に、わたしの祈りはこの方に聞かれているからです。

「アーメン」――

それは、神の約束に対する私たちの力強い「はい」です。主の祈りの最後のことばであり、ハイデルベルク信仰問答の学びの締めくくりにふさわしい響きをもっています。

私が幼いころ、自宅の本棚に並んでいた一冊の本が、なぜかいつも目に留まっていました。田中小実昌さんの『アメン父』という本です。本の帯には「アメン、アーメン、アーメン――ただ、ただ、アーメン」と書かれていました。その中身を読んだわけではありませんが、牧師であった父親が、日常の中で絶えず「アーメン」と口にしていたという事実だけは強く心に残りました。子ども心に、「アーメン」という言葉は特別な重みをもって響いたのです。

「アーメン」(אמן) はヘブル語で「まことに」「本当に」「確かに」を意味し、自分の言葉を保証するときに使われました。少しくだけて言えば、「これは本当です」「その通りにいたします」という響きです。

祈りの最後に「アーメン」と唱えるとき、私たちは祈りの内容に同意し、その実現を神に委ねます。しかし、正直なところ、その言葉を口にしながらも心の奥には「不確かさ」が残ることがあります。習慣として唱えることもあれば、祈りのすべてに心から同意できない時もあります。一方で、祈りの中で心が神に引き寄せられ、疑いのない確信をもって「アーメン」と言える瞬間もあります。大切なのは、「アーメン」と言うとき、私たちが確信を持って神に求めるより先に、神のほうですでに私たちの思いを知り、祈りに耳を傾けてくださっていることを覚えることです。

- ・ 神の約束はすべて、この方において「然り」となったからです。それで、私たちはこの方を通して神に「アーメン」と唱え、栄光を帰するのです。（Ⅱ コリント 1:20）
- ・ 私たちが真実でなくてもこの方は常に真実であられる。この方にはご自身を否むことはできないからである。（Ⅱ テモテ 2:13）
- ・ 彼らが呼ぶより先に、私は応え、彼らがまだ語っている間に、私は聞き届ける。（イザヤ 65:24）

私たちは「神の真実」に向かって「アーメン」と唱えています。神は変わらぬ約束の成就として御子イエスを世に送り、私たちを救いにあずからせてくださいました。救われた者として祈ることができるのは、すでに神に受け入れられている証です。「アーメン」には、神の真実は変わることがないという信仰が込められているのです。

長きにわたり、ハイデルベルク信仰問答の学びをご一緒してくださり、ありがとうございます。皆様の人生が、最後の息まで神への「アーメン」で締めくくられる歩みとなりますように。そして、その「アーメン」が、神の真実に抱かれた確かな喜びの響きでありますように。